

協働実践研究会マレーシア支部 KL 活動報告

2016年8月26日(金)、27日(土)第3回KLセミナー&マレーシアKL支部第7回研究会、2017年5月13日(土)第8回研究会を行いました。

本書で、併せて報告します。

第3回KLセミナー&マレーシアKL支部第7回研究会

2016年8月26日(金)、27日(土)

・参加者：

26日：大学教員10名、予備教育教員1名、中等教育教員1名、パートナーズ(日本人)1名、JFKL2名、語学学校教師2名、学生2名、計17名(午前午後を通した延べ人数)

27日：大学教員4名、予備教育教員4名、中等教育教員2名、パートナーズ(日本人)1名、教師養成機関教員1名、語学学校教師2名、学生2名、計16名(午前午後を通した延べ人数)

・場所：マラヤ大学言語学部

・プログラム

26日(金)：1000-1130 岩田先生の英語による語学教師のためのセミナー
Designing classroom activities for learning Japanese Conversation
-Some useful ideas of Conversation Analysis-
会話分析のアイデアを生かした会話教育のための活動デザイン

1300-1500 池田先生の日本語教師のためのワークショップ1

27日(土)：1000-1100 公募ポスター発表 1本

1130-1330 池田先生の日本語教師のためのワークショップ2

岩田先生のセミナーは、日本語教師だけでなく、学部の語学教師にも参加できるように英語で行っていただきました。そのセミナーには、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語コースの教師(マレーシア人、フランス人、コロンビア人、もちろん日本人!)が参加し、語学教師に共通するトピックと問題を担当教授言語の枠組みをこえて、共にふり返る絶好の機会となりました。

池田先生の1日目のワークショップは、協働学習できる授業をどう作っていくのかに悩む教師たちにアイデアを提示してくれる示唆深いものでした。さらに2日目には、自分の教育観をことばにし、他者に伝えることも行い、終了後には、「自分の授業だけでなく、自分のめざす教師観までも省察できた。」という声が聞かれました。

マレーシアKL支部第8回研究会【実践&理論】ゲストスピーカーを交えたゼミ形式
2017年5月13日(土)

・参加者：こども日本語教育活動実践者1名、大学教員2名、予備教育教員2名、
〔社会人〕大学院生1名、計6名(マレーシア人1名、日本人5名)

・場所：KL市内のカフェ

・プログラム：

★1030-1200

1) 子どもの日本語教育活動実践者による実践紹介

・発表者と日本語教育の関わり

・教材とかなを教えること、物語を読み聞かせる実践例の紹介

- 2) 『子どものことばを考えるワークブック』(川上ほか 2014) 10 課、11 課
・ワークブックの質問を参考に、国語の教科書と日本語を学ぶ子どもの教材、日本語学習者用の読み物(昔話)を見比べ、学習者にとって、難しいことは何か改めて考えました。

例) 浦島太郎・桃太郎の子供用の本と日本語初級学習者用の本の文章を比較

3) 質問、コメントやり取り

*参加者から(抜粋)

- ・「あいうえお」を教える順は？

→回答：子供には、「あいうえお」順でなく、ストロークの少ないものから書かされている

→これは、学生への導入順に取り入れてもいいという声があがった。

*元学習者のコメント

- ・中国系の学生も日本の漢字を覚え、書き順通りにかくのは、簡単でない
- ・上級の学習者でも、日本人のこども用の読み物(昔話)は、(今読んでみても)、表現や人の名前ですら、分かりにくい

→これに対し、こども日本語教育活動実践者からコメント：

「おかあさんを日本人にもつ子供たちは、日本は拙いですが、このような読み物を読み物として楽しんでますよ。」

★1200-1300 昼食とネットワーキング

○今まで 8 回の勉強会の中ではじめて、「こどもの実践」を取り上げました。

子どものために丁寧に作りあげた実践の報告とそこで行われた議論は、どの年齢の学習者にも共通する問題があることに気づかせ、私たちに基本に戻って授業を組み立てる大切さを考えさせてくれました。参加教師たちの対象学習者は、それぞれ異なっていましたが、どの参加者も満足した勉強会となりました。



文責：木村かおり(マラヤ大学言語学部講師)

【Smokehouse @ Cameron Highland】

：マレーシアにもこのような涼しそうなところがあり、また英国統治時代の“素敵な思い出”が残されています。

*本支部は、研究発表に特化せず、勉強会や会員の交流を大事にする会として、活動しています。